



## 小児科オンライン

<https://syounika.jp>



## 産婦人科オンライン

<https://obstetrics.jp>

遠隔健康医療相談の成育医療への活用提案

成育医療等協議会 提出資料

株式会社Kids Public 代表取締役 小児科医 橋本直也



# 自己紹介



橋本直也

CEO,小児科専門医, 公衆衛生修士

小児科オンライン代表

2009年 日本大学医学部卒

2011年 聖路加国際病院にて初期研修修了

2014年 国立成育医療研究センターにて小児科研修修了

2016年 東京大学大学院 公共健康医学専攻修士課程卒業

2015年- 都内クリニック勤務、株式会社Kids Public設立



重見大介

産婦人科専門医, 公衆衛生修士

産婦人科オンライン代表

2010年 日本医科大学卒

2012年 日本赤十字社医療センターにて初期研修修了

2015年 日本医科大学と関連病院にて産婦人科研修修了

2018年 東京大学大学院 公共健康医学専攻修士課程卒業

2018年- 臨床勤務、大学院（博士課程）と並行して

株式会社Kids Publicの産婦人科を統括



# 成育医療分野の特徴

- 小児科、産婦人科をはじめとする成育医療分野は主に妊産婦、子育て家庭、思春期の子どもたちを対象とする
- スマートフォンの個人保有率\*は、2017年の段階で、20代で94.5%, 30代で91.7%
- 妊産婦、子育て家庭、思春期の子どもたちの日頃のコミュニケーションの主体はSNSとなっている。ICTの活用にも抵抗が少ない
- 妊産婦、子育て家庭、思春期の子どもたちはインターネットを活用する世代である一方、インターネット上の有象無象の情報にさらされ、情報に翻弄されてしまう側面もある
- SNSでのコミュニケーションに抵抗がない分、電話や対面でのコミュニケーションを苦手とする人もいる



# 社会背景



妊娠・出産・子育ての孤立



虐待、産後うつ



軽症受診



ネット情報に翻弄



# 遠隔健康医療相談

## スマートフォンより医師に直接相談が可能

患者中心の医療である  
“medical home”を実現する  
ために遠隔医療は有効\*

\*AAP policy statement 2004



日本においても、遠隔医療をはじめとしたICTの活用を通して、医療機関で待っているだけでは届かない不安や孤立にリーチし、成育医療分野の課題解決に貢献しうる

遠隔健康医療相談(医師) \*\*

遠隔医療のうち、医師-相談者間において、情報通信機器を活用して得られた情報のやりとりを行い、患者個人の心身の状態に応じた必要な医学的助言を行う行為。相談者の個別的な状態を踏まえた診断など具体的判断は伴わないもの。

\*\* 「オンライン診療の適切な実施に関する指針」平成30年3月(令和元年7月一部改訂) 厚生労働省



相談イメージ



# 成育医療において遠隔健康医療相談 の貢献が期待される分野

- 子育ての不安軽減
- 虐待予防、早期発見
- 産後うつの予防、早期発見
- 思春期の子どもたちへの相談窓口の提供
- 医療機関への情報連携
- 小児科医、産婦人科医の地域偏在問題の解消
- 子育て世代包括支援センターの遠隔サポート
- 小児科医、産婦人科医にとっての新しい勤務形態の創出
- 軽症受診適正化
- 新型コロナウイルス流行下における相談窓口



# 国内事例紹介

## 産婦人科オンライン・小児科オンライン



# 産婦人科オンライン・小児科オンライン

## 産婦人科・小児科に特化した遠隔健康医療相談

- 小児科オンラインは2016年事業開始、産婦人科オンラインは2018年事業開始
- 産婦人科医/助産師/小児科医が対応（2020年5月現在138名が参加）
- 電話、LINE（チャット、音声通話、テレビ通話）に対応
- 平日18-22時 / 1枠10分予約制（開始15分前まで予約可）



## 妊娠～子育ての切れ目ない支援

妊娠

出産

子育て

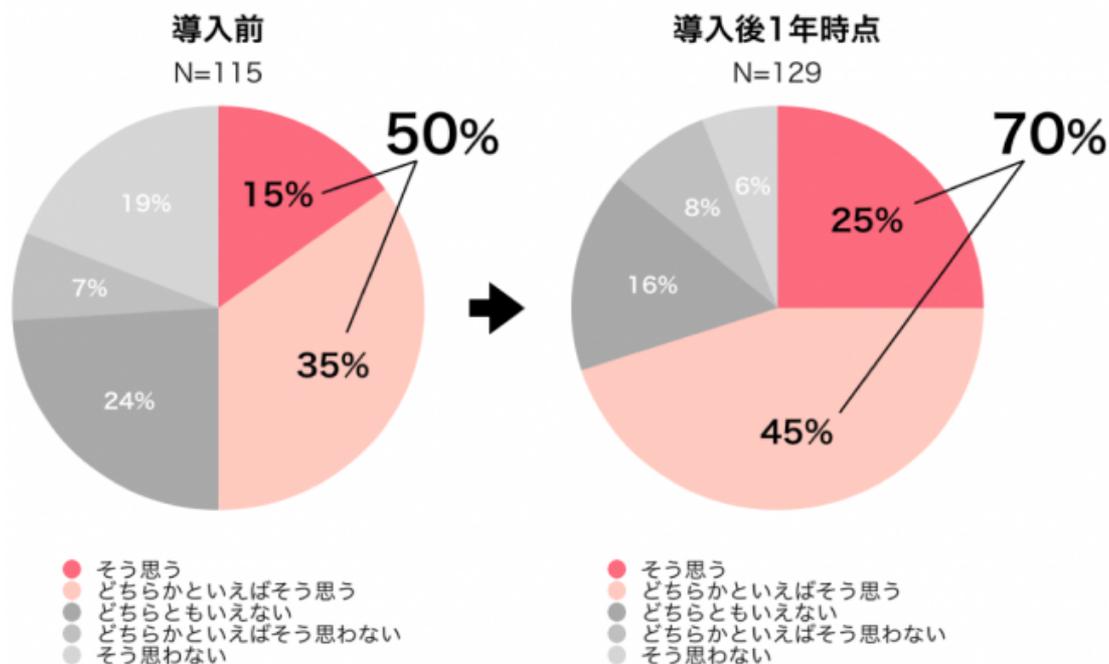


産婦人科オンライン 小児科オンライン



# 小児科医、産婦人科医の地域偏在問題の解消

- 小児科医、産婦人科医不在の自治体である埼玉県横瀬町において調査を実施
- 導入1年でお子さんの病気に関して相談できる小児科医が身近にいると感じる住民の割合が20%増加



## ※調査方法

小児科オンライン導入前後で町内の未就学児を育てる保護者へ質問紙調査を実施

実施場所 秩父ほうしょう幼稚園および横瀬町保育所

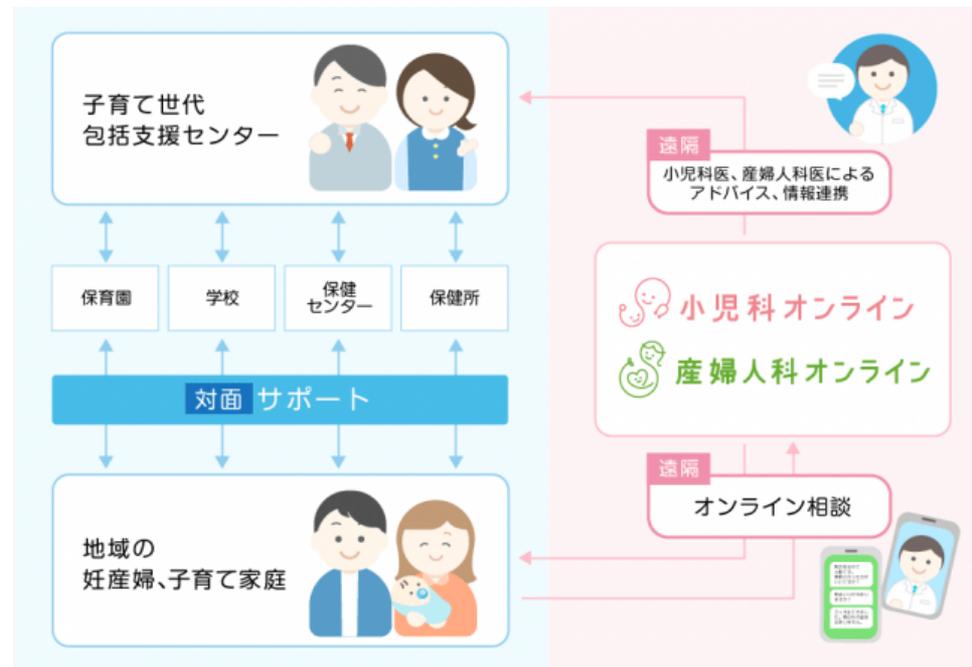
事前アンケート 回収期間 2018/5/10-2018/6/13, 回収率 115/125=92%

事後アンケート 回収期間 2019/5/27-2019/6/20, 回収率 129/154=84%



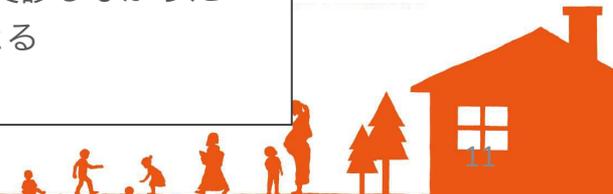
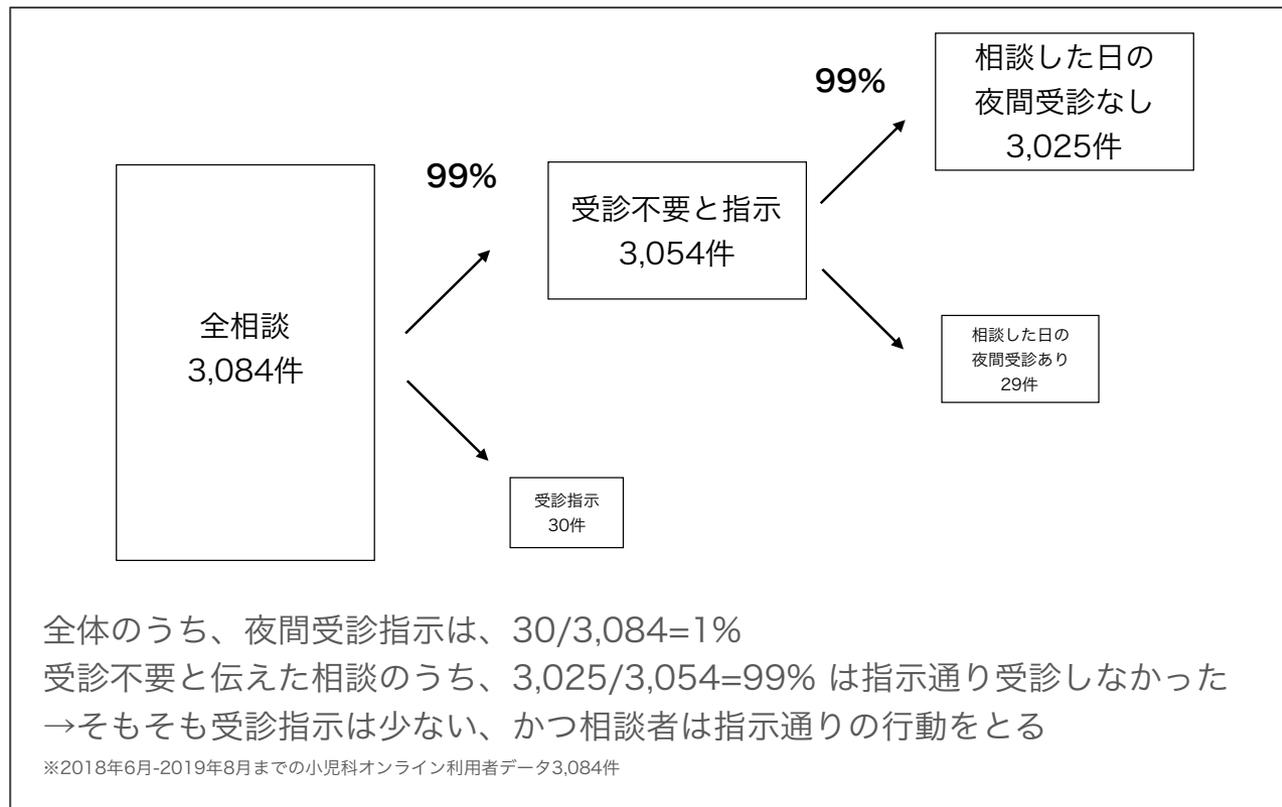
# 子育て世代包括支援センターの遠隔サポート

- 小児科医、産婦人科医不在の自治体の子育て世代包括支援センターを遠隔サポート
- 育児不安を抱えた家庭への対応のアドバイス、（新型コロナウイルスを含む）感染症対策に関する助言、発達悩みを抱えた家庭へのアドバイス、住民に向けた定期的な医療コラムの配信、住民対象の乳幼児健康相談事業でオンライン相談を実施、子育て世代包括支援センターの打ち合わせへの参加、などを全て東京からオンラインで各自治体を実施



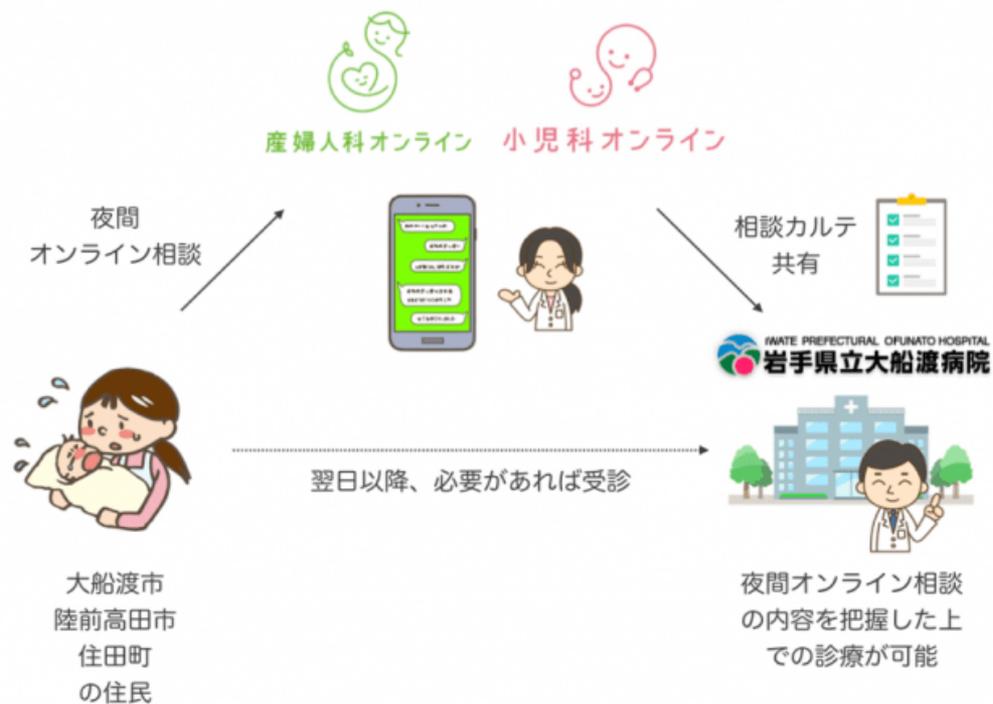
# 軽症受診適正化

- 2018/6-2019/8の小児科オンライン3,084件と利用翌日に実施しているウェブアンケート回収結果の集計, 回収率43%
- 「夜間でもすぐに受診すべき」と伝える割合は1%
- 「夜間受診不要」と医師が伝えた相談者のうち、99%はアドバイス通り夜間受診しなかった



# 医療機関への情報連携

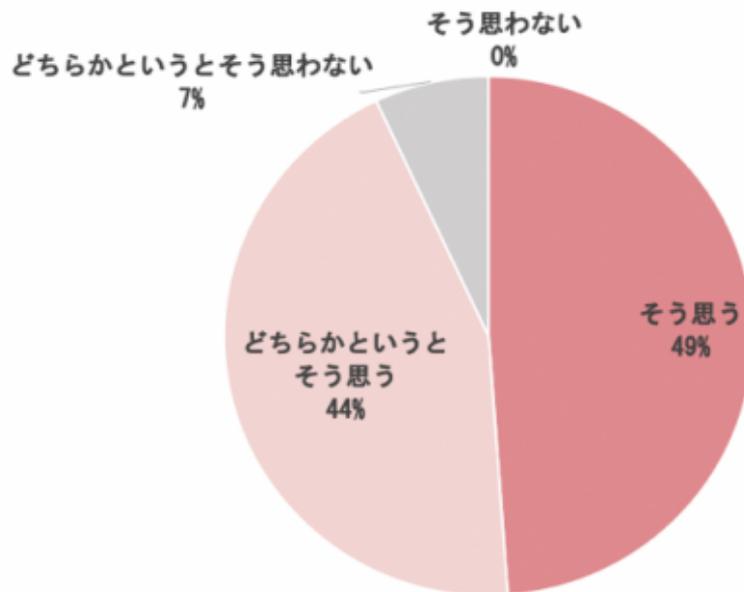
- 地域の中核病院へ相談カルテを連携
- 2020年1月より大船渡市、陸前高田市、住田町に住む利用者からのオンライン相談の内容および担当医師、助産師からの回答内容を地域の中核病院である岩手県立大船渡病院へ共有できるシステムを導入、運営を開始



# 子育ての不安軽減

- 横浜市港北区において実施した調査結果
- 利用者の93%が事業終了時に行なった質問紙調査にて「子育ての不安が減った」と回答

小児科オンライン・小児科オンライン看護師相談の利用により、子育ての不安が減った



## ※調査方法

2018年10月～2019年1月まで港北区在住の0歳第一子を育てる家庭向けの子育て支援サービスとして小児科オンラインを無料提供し、利用後のアンケートを実施した。回収率 75%(43/57名)



# 新型コロナウイルス流行下における相談窓口

- 新型コロナウイルス流行によって社会ストレスのかかる中、影響を受けやすく重点的に守らねばならない存在として、妊産婦、子どもたちがいる
- 新型コロナウイルス感染症への不安から起こる受診控え、相次ぐ乳幼児健診、母親学級の延期による対面サポートの減少、自宅待機増加によって、DVや虐待増加などが懸念された
- 経済産業省より令和2年度補正遠隔健康相談体制強化事業（小児・産婦人科専門窓口）の公募がなされた。本公募に対し「小児科オンライン」「産婦人科オンライン」が採択され、2020/5/1より全国民に対して無償で提供された

## 利用者の声

「今回、新生児の赤ちゃんについて、相談させていただきました。新生児ですし、ましてやコロナが心配な時期でもあり、あまり無駄に病院に行きたくなかったのも、オンラインで先生に相談できるサービスは本当に助かります。また是非利用させていただきたいと思います。ありがとうございました」（小児科医への相談）

「小さい子がいることや緊急事態宣言が出ている地域でもあり、受診には慎重になっていました。このサービスでは在宅で専門医の的確な回答が得られるので、安心安全に健康管理ができました。掲示板サイトなどもありますが、こちらのサービスの方が医師の情報がわかり24時間以内に回答を得ることができるのが大変良いと思いました。不安解消に繋がったのが何よりです。」（産婦人科医への相談）

「こんなことくらいで、と聞きにくいけど聞きたいことも聞きやすく、私はラインのメッセージを使いましたが、緊張して聞き忘れた、聞きたい事を言えなかったということが対面の診察より軽減され納得できるまで聞いてよかったです。」（小児科医への相談, LINEメッセージ）

「とてもいいサービスだと思います。産院に行って相談するような病的な問題ではないけど、赤ちゃんのことでどうしたらいいか悩んでいた問題を助産師さんという専門家に気軽に相談することができ、さらに的確なアドバイスをしてもらえて、気持ちも楽になったし、問題解決の糸口が見つかって、生活も楽になりました。また、初めてでしたが敷居も高くなく、LINEなので使い慣れていることもあり、育児でバタバタする中でも手をつけやすかったのも大変ありがたかったです。このようなサービスを提供していただき本当に感謝しています。ありがとうございます！」（助産師への相談, LINEテレビ通話）



# 成育医療等基本方針への提案

- 成育医療の対象者にとってスマートフォンやSNSは親和性が高い
- これまでの国内事例より、ICTを活用した遠隔健康医療相談は成育医療分野の課題解決の一助となりうることを示唆されている



成育医療等基本方針へ下記の内容を記載することを提案します

成育医療領域において、成育医療の向上に資する遠隔健康医療相談をはじめとしたICTやSNSを活用した施策を広く取り入れ、推進する方針とする



# Kids Public

## Mission

子どもたちの生涯にわたる健康を守り、  
その向上に貢献する

## Vision

生まれ来る全ての子どもたちに届く  
サービスを作る

## Value

生活圏において成育医療をより身近なものとする

子育てにおいて誰も孤立しない社会をつくる

産前産後の切れ目ないケアを重視する

成育医療の質の向上に貢献する

成育医療におけるエビデンスの創出を行う



# 会社概要

会社名	株式会社Kids Public
所在地	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-8-14 神田新宮嶋ビル4階
設立	2015年 12月
代表者名	橋本 直也（小児科医）
事業内容	インターネットを介した成育医療
従業員数	65名（2018年10月現在）
受賞歴	2016.8 Open Network Lab 12 <sup>th</sup> Batch Demodayオーディエンス賞 2016.11 TechCrunch Tokyo 2016 「スタートアップバトル」優勝(114社中) 2017.3 東京都から有限責任監査法人トーマツが委託を受けて運営する「ASAC Batch3 Demo Day」優勝 2017.9 第11回キッズデザイン賞にて経済産業大臣賞を受賞 2017.11 第6回健康寿命をのばそう！アワードにて厚生労働大臣賞を受賞
問い合わせ先	contact@syounika.jp

